

# ニセコ地域で地熱有望エリアを特定

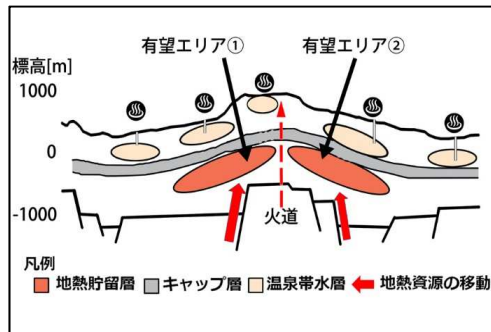
地熱構造モデル構築による地熱資源量評価と温泉への影響可能性評価

## 背景

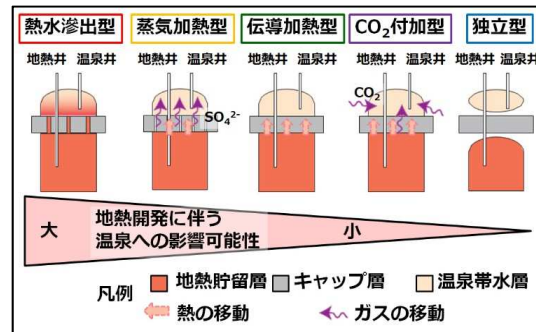
- ・ニセコ地域は地熱有望地域ですが、1980年代の初期調査以降、詳細調査は行われず資源量が精査されていません。
- ・東日本大震災が契機となり、再生可能エネルギーの一つである地熱発電が再び注目されています。
- ・地熱開発に伴う多種多様な温泉への影響についても明らかにする必要があります。

## 成果

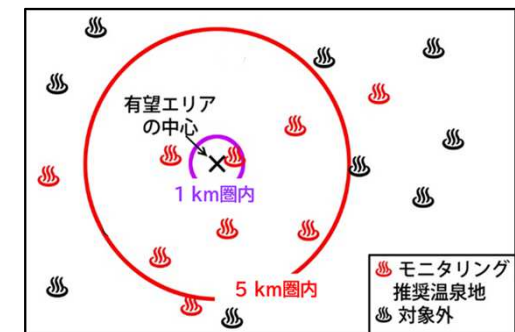
- 1 有望エリアを特定し発電規模を算出
- 2 温泉を5分類し地熱開発の影響を評価
- 3 モニタリング推奨温泉地を提案



・有望エリア2カ所を特定、各々について一般家庭約4万世帯分の発電規模を算出



・調査地域内の全温泉を各型に分類し、地熱開発に対する影響可能性を評価



・成果1、2を総合解析し、各有望エリアを開発する際のモニタリング推奨温泉地および調査項目を提案

## 期待される効果

- 成果を地元を提供するほか、地熱開発事業者と連携した温泉監視体制を構築。  
⇒ステークホルダー間の不安要因を低減し、開発に向けた相互理解・合意形成が円滑に進みます。
- 構築した手法に基づく調査研究を温泉地近傍で地熱開発が検討されている地域に展開。  
⇒周辺温泉に配慮した開発により地熱・温泉の利活用が進み、地域活性化が期待できます。

共同研究機関:北海道大学、北海道立衛生研究所 協力機関:東京大学地震研究所、北海道経済部、北海道保健福祉部、ニセコ町、蘭越町、倶知安町